

報道関係者 各位

2021年9月29日

公開講演会「流動化する家族のかたち ——少子高齢社会を文化人類学から考える」

2021年11月12日(金)日経ホール(東京)にて開催！

※新型コロナウイルス感染症の予防のため、講演会を変更・中止する場合がございます。予めご了承ください。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、公開講演会「流動化する家族のかたち——少子高齢社会を文化人類学から考える」を2021年11月12日(金)に日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)にて開催します。

【趣旨説明】

家族はもっとも身近なあつまりですが、その輪郭は決して固定的なものではありません。結婚、離婚、未婚によって家族のかたちは変化しますし、シェアハウスやペットへの関心の高まりは、新しい家族を求める姿ともいえます。安定しているようにみえる家族も、さまざまな制度やテクノロジーを駆使し、それに支えられています。

本講演会では、ヨーロッパと南アジアで、少子化や高齢化と向き合っている現代家族の輪郭が変動的であることに注目し、家族のかたちが流動化しつつあることについて考えます。産み・育て・食べさせ・世話し・介護する、生存の空間としての家族の、現代世界におけるあり方について考えていきます。同じ観点から、感染症や震災に対面した家族に起こっていることについて討論します。



みよび 公開講演会

流動化する 家族のかたち

——少子高齢社会を文化人類学から考える

2021年
11月12日 | 金
18:30-20:40 (17:30 開場)
日経ホール
東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F

参加費: 無料(要事前申込み)
定員: 300名(先着順)

※平日開催あり
※本講演会は全場での録音のほか、質疑応答も事前収録申込みでも参加いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の予防のため、講演会を変更・中止する場合がございます。予めご了承ください。

主催  国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 日本経済新聞社

【講演1】自宅介護はどのように作動したか——EUオーストリアの山地農家

森 明子(国立民族学博物館 教授)

EU体制下のオーストリアで、老親を介護する山地の家族のすがたをとらえる。地域の医療制度や外国人介護者も加えて、介護家族が状況に応じてかたちをかえていくプロセスに注目する。

【講演2】ケア空間としての家族の境界——インドの都市中間層

松尾 瑞穂(国立民族学博物館 准教授)

インドの都市中間層の家族は、家族外の人も取り込みつつ、日常的なケアがやり取りされる空間である。その境界の変化を、90年代以降の経済自由化や都市化、少子化とのかかわりから探る。

【コメント】保育に映し出された地域と家族——東日本大震災をめぐって

大門 正克(早稲田大学教育・総合科学学術院 特任教授)

東日本大震災後、岩手県陸前高田市で調査を続けてきた。津波の被害を免れた資料、聞き取りで聞こえてきた声を手がかりにして、災害と地域と家族をめぐり、コメントしてみたい。

【パネルディスカッション】災害・感染症とケアと家族

【パネリスト】 森 明子 × 松尾 瑞穂 × 大門 正克

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開 会	津川 悟(日本経済新聞社大阪本社 編集局長)
18:35 - 18:40	挨拶	吉田 憲司(国立民族学博物館長)
18:40 - 19:10	講演 1	森 明子(国立民族学博物館 教授) 「自宅介護はどのように作動したか——EUオーストリアの山地農家」
19:10 - 19:40	講演 2	松尾 瑞穂(国立民族学博物館 准教授) 「ケア空間としての家族の境界——インドの都市中間層」
19:40 - 19:55	休 憩	
19:55 - 20:40	コメント	大門 正克(早稲田大学 特任教授) 「保育に映し出された地域と家族——東日本大震災をめぐって」
	ディスカッション	森 明子 × 松尾 瑞穂 × 大門 正克 「災害・感染症とケアと家族」
20:40	終 了	

【登壇者プロフィール】**森 明子(国立民族学博物館 教授)**

専門は文化人類学。オーストリア南東の村や、ドイツのベルリンで、人びとが変容する現代世界をどのように生きているか追っている。著書に『土地を読みかえる家族——オーストリア・ケルンテンの歴史民族誌』(1999年、新曜社)、編著に『ケアが生まれる場——他者とともに生きる社会のために』(2019年、ナカニシヤ出版)などがある。

**松尾 瑞穂(国立民族学博物館 准教授)**

インドをフィールドに、出産や不妊といった生殖にまつわる実践とジェンダーや家族とのかかわりについて研究している。著書に『ジェンダーとリプロダクションの人類学——インド農村社会における不妊を生きる女性たち』(2013年、昭和堂)、『代理出産の文化論——出産の商品化のゆくえ』(2013年、風響社)がある。

**大門 正克(早稲田大学教育・総合科学学術院 特任教授)**

日本近現代の民衆史について、歴史学の視点から調査研究を進めている。いまを生きる人に過去の経験を尋ね、地域の歴史を探り、歴史と現在を往還するなかで研究に取り組んでいる。著書に『語る歴史、聞く歴史——オーラル・ヒストリーの現場から』(2017年、岩波新書)、共著に『「生存」の歴史と復興の現在——3・11 分断をつなぎ直す』(2019年、大月書店)などがある。

【開催概要】

講演名	公開講演会「流動化する家族のかたち——少子高齢社会を文化人類学から考える」
日時	2021年11月12日(金) 18:30～20:40(開場17:30)
会場	日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)
定員	300名(要事前申込み／先着順)
ライブ中継	本講演は会場内での聴講のほか、WEBライブ中継(要事前申込み)でも参加頂けます。
主催	国立民族学博物館、日本経済新聞社

【会場】 日経ホール 要事前申込(定員300名・先着順)／無料

【ライブ中継】 要事前申込(定員なし)／無料

【申込み方法】

申込方法

会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

* 参加申込をいただいた方の個人情報は本講演会でのみ使用いたします。

<https://www.minpaku.ac.jp>

2021年10月8日(金)受付開始予定

問合せ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館 研究協力課

TEL 06-6878-8209 メールアドレス koenkai@minpaku.ac.jp

【お問合せ】 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press